

令和元年度社会福祉法人高取町社会福祉協議会 事業報告について

令和元年度事業報告

1. 会務の運営

(1) 第1回理事会

- | | |
|-----|--|
| 期 日 | 令和元年5月31日 |
| 場 所 | 高取町役場2階集会室A |
| 議 事 | ①平成30年度補正予算
②平成30年度事業報告
③平成30年度一般会計決算報告
④経理規程の変更
⑤理事・監事・評議員選任規程の変更
⑥理事候補者並びに監事候補者の推薦
⑦第三者委員の選任
⑧定時評議員会の招集 |

(2) 第1回評議員会

- | | |
|-----|---|
| 期 日 | 令和元年6月17日 |
| 場 所 | 高取町役場2階集会室A |
| 議 事 | ①平成30年度補正予算
②平成30年度事業報告
③平成30年度一般会計決算報告
④経理規程の変更
⑤理事・監事・評議員選任規程の変更
⑥理事・監事の選任 |

(3) 第2回理事会

- | | |
|-----|--|
| 期 日 | 令和元年6月24日 |
| 場 所 | 高取町役場2階集会室A |
| 議 事 | ①理事長・副理事長の互選
②表彰委員の委嘱
③評議員選任・解任委員の選出 |

(4) 第3回理事会

- | | |
|-----|--|
| 期 日 | 令和2年3月11日 |
| 場 所 | 高取町役場2階集会室A |
| 議 事 | ①令和元年度一般会計補正予算
②令和2年度事業計画
③令和2年度一般会計予算 |

④慶弔規程

⑤定時評議員会の招集

(5) 第2回評議員会

期 日 令和2年3月25日

場 所 高取町役場2階集会室A

議 事 ①令和元年度一般会計補正予算

②令和2年度事業計画

③令和2年度一般会計予算

2. 地域福祉活動事業

(1) 福祉の理解の広がり と 住民参加の促進

①ボランティアセンター事業

○高齢者等日常生活用具・レクリエーション用品貸出

(貸与品)	車イス	貸与延べ台数	21台
	レクリエーション用品	貸与回数	19回

○ボランティアルーム無料貸し出し

(利用回数) 101回

(内 容) ボランティア活動拠点、子どもの居場所、相談室、会議室

②高取町ボランティア団体連絡会活動への協力

参加団体数 16団体

○たかとり元気フェスタ開催

実施日 令和元年9月14日(土)

場 所 高取町リベルテホール

参加者 約580名

内 容 「世代をこえてつながりの輪」と題し、子どもから高齢者の方までみんなが楽しく交流ができるイベントをボランティア団体連絡協議会で企画し実施しました。毎年ボランティアの輪が広がっています。



③障がい者への理解や福祉の理解を広げるための研修会を実施

障がいを持っている人たちのことを多くの人に理解して頂き、障害の有無にかかわらず誰もが安心して暮らせる町になることを目標とし、研修会を毎年実施しているが、今年度は、令和元年3月5日の開催予定であったが、コロナ感染拡大防止のために中止した。

内 容 ～みんなちがってみんないい～ もしも願いが叶うなら
「かあちゃん とうちゃんのおもしろ子育て奮闘記」

講 師 山口 歩氏

(2) 住民の支え合い活動(居場所づくり)の推進

①ふれあいサロン支援事業(共同募金配分金事業)

対象サロン2件

(年間合計 87回開催)



②地域をつなぐ交流の場づくり事業（共同募金配分金事業）

対象大字 3 件



③奈良県子どもの「心と学び」サポート事業（委託事業）

みんなと一緒に宿題をしよう会

実施回数 10回

参加延べ人数 85人

活動者（ボランティア）数 8人



④高取町社会福祉法人共同事業

ふれあい食堂

実施回数 11回

参加延べ人数 338人



（3）住民支えあい活動（見守り）の推進

①高取町防犯ボランティア連絡協議会活動に対する協力

○青色防犯パトロール

・通常パトロール（夏休み・年末夜間パトロール含む）

毎週 2 回（月曜・金曜日） 活動人数 47 名

・夜間専属パトロール

毎週 1 回（金曜日） 活動人数 9 名

・早朝パトロール

毎週 3 回（月曜・水曜・金曜日） 活動人数 2 名

・2・3区重点パトロール

毎週 1 回（金曜日） 活動人数 1 名

○子ども見守り隊（6 大字で実施）

○総会及び講演会の実施

開催日 平成31年4月24日（水）

場 所 高取町役場 集会室A

参加人数 36名

○防犯みまもメール配信

登録者数 243名

配信回数 4回



②在宅ひとり暮らし高齢者への事業（共同募金配分金事業）

○ひとり暮らし老人給食サービス事業

実施回数及び配食数 11回 517食

○お節料理配食事業

令和元年12月31日実施 配食数 139食

○ひとり暮らし高齢者訪問事業

・手作り品贈呈 対象者数 246人

・カレンダー配布 対象者数 246人



3. 地域福祉権利擁護事業

年間相談取扱件数 5件
利用者延べ人数及び訪問回数 0人 0回

4. 心配ごと相談所運営事業

開設回数 12回
場 所 高取町役場 2階和室
年間相談取扱件数 1件
相談員延べ人数 35人

5. 低所得者対策

- (1) 生活福祉資金の貸付
貸付相談 6件
貸付世帯数 2世帯（内訳：教育支援資金2件）
- (2) 相談支援
ケース会議 69回
- (3) フードレスキュー（食の支援）
支援ケース 4件
- (4) ぐらんふあみ〜ゆ（学習支援）
実施回数 31回

6. 災害支援対策

「だれもが住み慣れた地域で安心してくらせるまち」になるためには、「災害に強いまち」になることが必要であると考え、平成25年度に災害支援マニュアルを作成した。マニュアルの見直しを検討しながら、社協事業に関わる利用者の災害時安否確認一覧表

を作成し、定期的に見直しを行っている。

今後も継続してマニュアルの見直しを行いながら、実際に機能できるかどうかの検証等を行っていく。

7. 共同募金運動への協力

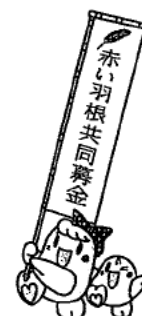
(1) 赤い羽根募金（10月）実績額

一般募金 981,513円

法人募金 550,654円

(2) 歳末たすけあい募金運動（12月）

実績額 788,515円



8. 善意銀行の運営協力

善意の金品預託強化を図るための趣旨普及及び事業活動

(1) 受託件数 3件 124,749円

(2) 配分件数 0件 0円

9. 広報活動

(1) たかとり社協だより第22号発行（令和元年3月）

発行部数 3,000部

(2) 高取町社会福祉協議会ホームページの運営

HPアドレス <http://www.takatori-shakyo.jp/>

10. 居宅介護支援事業（ケアプランの作成）

ケアプラン作成件数 672件 月平均 56件

11. 訪問介護事業（ホームヘルプサービス）

(1) 訪問介護事業

利用者実人数及び延べ人数 実人数 337人 月平均 28人

延べ人数 3,416人

(2) 介護予防日常生活支援事業（第一号訪問事業）

利用者実人数及び延べ人数 実人数 194人 月平均 16人

延べ人数 1,142人

12. 受託事業

(1) 介護保険要介護認定訪問調査（町委託事業）

調査件数（高取町） 6件 月平均 0.8件

（他市町村） 4件

(2) 介護保険介護予防支援業務（町委託事業）

作成件数（総合事業） 36件 月平均 3件

（予防事業） 79件 月平均 6.5件

1 3. 障害福祉サービス事業（障害者総合支援法に基づく）

（1）居宅介護事業（ホームヘルプサービス）

利用者実人数及び延べ人数	実人数	44人	月平均	4人
	延べ人数	695人		

1 4. 移動支援事業（障害者総合支援法に基づく）

（1）移動支援サービス（社会参加のための外出付添）

利用者実人数及び延べ人数	実人数	16人	月平均	2人
	延べ人数	38人		

1 5. 生活支援体制整備事業

高取町生活支援体制整備事業では、「高取町に住むみんなが、助け合い、支え合い、つながっていく、ぬくもりある地域を目指す」ために、令和元年度は、①地域性にあった高齢者の活動場所を地域住民や様々な関係団体と連携しながら作っていく②ニーズに対しての個別支援や助け合い・支え合い活動の推進を行う③移動手段の確保について取り組んだ。

特に、③移動手段の確保については、平成30年度に行った移動手段のアンケートから、高齢者の外出の1番の目的が「日常生活の買い物」で、週に1回～3回外出をしている人が7割いるが、移動手段がなくて「日常の買い物」をあきらめる人が153人いることがわかった（1234票の回答のうち）。そこで、「日常のお買い物の援助をお願いしたい」という人に対し、「手助けをしたい」という人がお手伝いをする住民同士の助け合い活動としてお買い物ツアーを実施した。

《お買い物ツアー》

実施期間	平成30年12月～令和2年2月
利用者実数	35人
利用者延数	138人
活動ボランティア実数	7人
利用者平均年齢	80歳
1回平均利用人数	5人

利用人数は少ないようにも感じるが、高齢者の外出手段がなくて日常の買い物をあきらめる人が153人いるなか、お買い物ツアーを利用した人が35人おり、実は、23%の人が、日常の買い物をあきらめなくともよくなったことで、2割以上の人の困りごとを解決した結果となった。153人のうち4人に1人の困りごとが解決されたことになる。

具体的な困りごとの解決策となった以外に、このツアーは申込制なので、買い物困難者のニーズが常に把握することができ、参加者は買い物による外出の機会が増え、今までの暮らしぶりを維持しながら、他者との交流も図れる。お手伝いをする人は、困っている人のサポートをすることで住民同士の助け合い活動が行われ、それは、お互いにいきいきとした生活へとつながり、各々自身の介護予防につながっていると言える。そして、助け合い活動を理解し、新たな担い手を発掘していくにも、このツアーはとても有効と考えられ